

Kasukabe High School

Melbourne High School



ホームステイプログラム

平成 21 年度埼玉県立春日部高等学校国際交流事業 メルボルンハイ受入





4月17日(金)

メルボルンハイの皆さん来校
対面式 ~ホストファミリーと対面



4月18日(土)

美術特別授業 日本画体験 美術室
弓道部紹介 弓道体験 弓道場
ファミリーデー



4月19日(日)

ファミリーデー



4月20日(月)

歓迎式典 ～メルボルンハイ、春日部高等学校代表挨拶

メルボルンハイ、本校吹奏楽部と応援指導部校歌紹介

書道特別授業 ～文字の背景と書道体験 書道室

ホストとランチ

授業参加

本校生徒会主催歓迎会



4月21日(火)

1日市外見学 ～上野、浅草

上野恩寵公園

不忍池

アメ横

仲見世通り

浅草寺



4月22日(水)

クラス SHR

体育特別授業 ～柔道体験 柔道場

家庭特別授業 ～味噌汁作り 調理室

ホストとランチ

授業参加

半日市外見学 ～埼玉県立歴史と民俗の博物館

藍染体験

博物館見学

園内散策

4月23日(木)

メルボルンハイ帰国

東京ディズニーランド

成田国際空港



メルボルンハイ受入 ホストファミリーの皆様

文化の異なる生徒をホストすることは、とても楽しく、各ご家庭においても貴重な経験となるものです。忘れて頂きたくないことは、文化の背景が異なっても、私達の心はみな同じだということです。温かさや笑いが、大いに役立ちます。

オーストラリアからの生徒たちは、家から遠く離れてきた子どもたちで、時に寂しく感じていることもあります。生徒たちは各ご家庭の習慣や、何を言われているのかがしばしば理解できないでしょう。様々な場面で根気と愛、そして小さな心配りが必要となるでしょう。



日本での家族生活

オーストラリアの生徒たちは、日本語で話すことを練習するために、日本に来ています。彼らは自分の日本語について、少々引っ込み思案になっていることでしょう。そこで温かく接し、うまくやりとりをすることが望まれます。食卓を囲んで、単純なトランプやボードゲームをするのも良いでしょう。日本のテレビについては、言葉の関係で彼らにはほとんど理解できません。オーストラリアの生徒たちに、何か得意なものがある

ようであれば、それを教えてもらうことも1つのコミュニケーションです。例えば日本からオーストラリアに行った生徒たちには、現地で折り紙や習字を教えることのできる生徒もいました。その他各ご家庭のあらゆる場面で、できるだけ一緒に過ごすようにしてください。

家事については、オーストラリアでは父親も男の子も料理をしますし、食器を洗ったりもします。もし各ご家庭で普段から家事を家族全員でなさっているようでしたら、参加させてあげてください。



プレゼント

オーストラリアでは、プレゼントについての考え方は様々です。概して何かの折があれば、1つ2つの小さなプレゼントを用意することが多いようです。もしオーストラリアの生徒たちが何かを用意していれば、遠慮することなく受け取ってください。お返しについては深く考える必要はありません。どんなに小さなものでも、良い思い出になります。



お風呂

日本では、バスタブにお湯をはって、家族全員が交代で入ることがありますが、オーストラリアでは、概ねシャワーで済ませているので、シャワーをすすめる方が良いでしょう。お風呂そのものに入ることもあります、その場合には、湯船の中で体を洗い、お湯をその都度捨てます。現地のバスタブは日本のもののように深くはなく、お湯の入れ替えが容易です。そこでお湯や水の使い方、またお風呂の時間については、最初に各ご家庭のルールを説明してください。しっかりとした指示があれば、オーストラリアの生徒たちは、気を使うことなく快適に過ごすことができます。



お洗濯

汚れた服をどこに置けば良いのか、伝えてください。もし自分で洗濯をしたいようであれば、日本の洗濯機は多機能、高性能なので、使い方をよく教えてあげてください。いずれの場合も各ご家庭でルールがあれば、それを説明してください。概ね日本の家庭ではほとんどのことが親任せですが、オーストラリアでは自分のことは自分するのが原則です。



食事

ホームステイ体験の一部は、違う食べ物に挑戦することです。オーストラリアでは、お米を食べることもあります。日本のように炊くことは少ないものの、サラダの付け合せにしたり、ピラフにして食べます。いずれにせよ最近では日本の食事でも欧米化が進んでいるので、あまり気にすることはありません。また、普段の食卓に必ずあるもので、オーストラリアの生徒たちも挑戦したいのであれば、

日本の伝統的な食材、例えば梅干をすすめても構いませんが、わざわざ用意する必要はありません。また、自分に必要な分を食べればあとは残してしまうので、出された料理全てを食べることは期待しないでください。

健康管理

もし、オーストラリアの生徒たちが健康を害しているようであれば、国際交流委員の教員に知らせてください。その後メルボルンハイの担当教員と相談します。もし、突然の発熱など一刻を争う状態で、各ご家庭がかかり付けの医者がいらっしゃる場合には、連れて行ってあげてください。

カルチャーショック

異なる言葉と文化の中で、完全に落ち着くことは、誰にとっても難しいことです。それはとても疲れることです。カルチャーショックの主な兆候は、家族から離れて引きこもる、発作的に泣く、過度に寝ていたり倦怠になることです。もし、そうしたことで心配なことがあれば、ご連絡下さい。しかし、たいていのオーストラリアの生徒は、日本で経験できる楽しいことが大好きです。



電話

もし、オーストラリアの生徒が家に電話をかけたいようであれば、良いアドバイスをしてあげて下さい。その際には、時間や各ご家庭のルールを指示してください。

お金

オーストラリアの生徒たちを迎えている間は、全ての食事を提供して下さい。家族の食事として、持ちかえりの食事を買う時には、生徒たちに負担させないようにして下さい。個人的な買い物や、アミューズメント施設への入場券などの支払いは生徒たちの負担です。ただし日本には、お金のかからない多くの素晴らしい見所があることを忘れないでください。

結び

オーストラリアの生徒たちにも、家族と同じ愛情を注いでください。いつもどこにいるのかを知っててください。また、彼らが常に名前や住所、電話番号を持っているか、確認して下さい。溢れんばかりの温かさとホスピタリティーがあれば、ホームステイ経験は良い実を結びます。それは同時に、より良い国際交流に貢献することでもあります。

何かご質問や困難がありましたら、どうぞ遠慮なくご連絡下さい。



Written by S. Gibbons ~Forest View High, Tokoroa, New Zealand
and Tatsuya Y. ~Kasukabe High, Saitama Japan
埼玉県立春日部高等学校 国際交流実行委員会

